

【温暖化対策の推進】

4. ストップ温暖化プロジェクト

4-1 かさまの森林(もり)推進

〈ねらい〉・本市に所在する森林を対象に、市民・事業者と協働により植林や間伐等の森林整備を行うことで、森林の伐採と再生のサイクルを促進し、二酸化炭素吸収量の多い森林を形成します。

- ・森林整備を通して環境教育・自然体験を行い、市の自然環境に対する保全意識の醸成を図ります。

〈実施事業〉 かさまの森林(もり)を元気にしよう！

取組指標	当初(H27)	中期(R2)	長期(R7)	令和4年度
森林・里山保全活動への参加人数	1,045人	822人	1,050人	585人

実施内容

森林吸収源としての機能をはじめ、水源かん養機能や国土保全機能など多様な公益的機能を担う森林の役割や重要性について周知を図り、地場産材の積極的な利用や里山保全活動に積極的に参加・協力するよう呼びかけます。また、里山づくりや森づくりに努めます。

- カスミ主催の植樹祭(会場：愛宕山)は悪天候のため中止となりました。

- 緑の少年団活動(市内5団体)585人

団体活動を支援し、森林・林業体験キャンプ、里山体験学習及び花壇づくり等を行いました。

(稲田小学校わがくに緑の少年団183人、友部緑の少年団22人、北川根小学校緑の少年団248人、岩間第一小学校あたご緑の少年団106人、笠間緑の少年団26人)

〈評価・課題〉

森林資源の活用促進として、緑の少年団活動等を支援し、森林の有する公益的機能の理解促進と自然環境保護に対する意識の高揚を図りました。

一方、木材価格の低迷による森林所有者の経営意欲の低下や担い手不足、相続による世代交代などから、所有者不明の山林が多く存在しており、適正な維持管理がなされていないことが課題となっているため、林地台帳制度の周知を強化し、台帳整備に努め、問題解決を図ります。

第1章の関連する施策:森林の育成・活用(P3.4)

4-2 環境にやさしい交通推進

〈ねらい〉 交通利用の在り方を再確認し、公共交通利用や徒歩、自転車による移動がしやすい環境を整備することで、環境負荷の少ない交通利用を推進し、市内における運輸・移動による二酸化炭素や大気汚染物質排出量の削減を図ります。

〈実施事業〉 公共交通や自転車を活用しよう！

取組指標	当初(H29)	中期(R2)	長期(R7)	令和4年度
エコ通勤チャレンジ 実施回数	2回	1回	2回	2回

取組指標	当初(R2)	長期(R7)	令和4年度
レンタサイクル・ シェアサイクル利用台数	延べ1,548台	延べ6,000台	延べ2,832台

実施内容

過剰なマイカー利用がもたらす地球温暖化問題についての意識の高揚を図るため、エコ通勤チャレンジウィークを実施します。通勤、通学、買物等でマイカーの利用を控え、鉄道・バスなどの公共交通や自転車を利用するなど、環境にやさしい移動の取り組みを促進します。

観光客に対して、温室効果ガス(CO₂)排出量の削減を目指したレンタサイクルやシェアサイクルなどの活用を推進します。

●エコ通勤チャレンジウィーク

- ・6月1日(水)～6月7日(火)
参加者延べ人数 6,125人
うち実施延べ人数 1,102人
- ・12月20日(火)～12月26日(月)
参加者延べ人数 6,209人
うち実施延べ人数 615人

●レンタサイクルの利用台数

延べ利用台数 1,368台

●シェアサイクルの利用

実証実験も含め市内の公共拠点12ヶ所(友部駅、道の駅かさま、笠間駅、笠間工芸の丘、かさま歴史交流館井筒屋、笠間市役所、ギャラリーロード、あそびの杜、稲田駅、福原駅、ムラサキパークかさま、福原公営住宅)にサイクルポートを設置し、自動車利用の抑制を促しました。

<評価・課題>

エコ通勤チャレンジウィーク期間中、エコ通勤を実践できたのは参加者の14%程度の結果となりました。公共交通や自転車での通勤が困難なマイカー通勤者にはできることから実践するよう促進していきます。

シェアサイクルは、鉄道駅や観光拠点からの発着を中心に利用されており、市内周遊への活用が図られています。今後も運営状況を見ながらサイクルポートの増設や自転車の増車を検討し、利用促進を進めていきます。

グリーンスローモビリティは乗り心地もよく、観光や買い物の移動手段としての利用意向は高いものの、低速運行による不便さや荒天時は運行できないこと、運行事業としての採算性などの課題もあり、引き続き市内公共交通の再編も視野に入れた検証を進めていきます。

第1章の関連する施策:スマートムーブ(自動車利用の抑制)(P24)、広域連携による取組の推進(P29)

4-3 市民の主体的な温暖化対策促進

〈ねらい〉 省エネの取組や電力消費量の「見える化」など、家庭において日常生活のなかで実践できる地球温暖化対策について紹介するとともに、参加型の取り組みを実践し、活動の促進を図ります。

〈実施事業〉 CO₂削減エコライフチャレンジに参加しよう！

取組指標	当初(H29)	中期(R2)	長期(R7)	令和4年度
エコチャレンジ 市内参加人数	354人	603人	700人	523人

実施内容

家庭での節電により、どれだけ二酸化炭素(CO₂)を減らすことができるかを競う取組を県央地域9市町村で同時に実施します。

- 家庭における電気の使用量の削減に努めるため、令和3年12月の家庭の電気使用量と令和4年同月とを比較し、昨年度比で電気量を削減する取り組みを意識的に行うため実施しました。

取組期間：11月から12月の2か月間

〈評価・課題〉

節電など、できることから始めることが、地球温暖化防止に繋がることから、学校などを通じて、各家庭の参加を促していますが、一般の参加者が少なく、更なる周知が必要となります。

気軽にできる地球温暖化防止対策の一つとして、節電に取り組む家庭が増加するよう促進していきます。

第1章の関連する施策：家庭や学校における地球温暖化対策の普及促進(P24) 広域連携による取組の推進(P29)

4-4 再生可能エネルギー活用への推進

〈ねらい〉 二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーを活用した太陽光発電や、発電した電気を貯めることができる蓄電池の設置により、電気の自家消費を行い、発電にかかる二酸化炭素排出量の削減を図り、もって地球温暖化防止に寄与し、2050年カーボンニュートラルの実現を目指します。

〈実施事業〉 太陽光発電システム・蓄電池を設置しよう！

取組指標	当初(R4)	長期(R7)	令和4年度
市補助による住宅用太陽光発電システム設置容量	新規	1,840kW(※)	255kW(39件)

(※)4.6kW(1件当たりの平均出力)×100件×4年=1,840kW

実施内容

太陽光発電システム(最大出力合計値が10kW未満かつ未使用のもの)及び、蓄電システム設置費用を補助します。

また、入所型の福祉施設に設置する太陽光発電システム及び蓄電システム設置費用を補助します。

●住宅用太陽光発電システム及び蓄電設備システム設置費を補助しました。

1) 太陽光発電システム蓄電システム

申請数: 39件

設置容量計: 255kW

2) 蓄電システムのみ

申請数: 53件

蓄電容量計: 760kWh

●入所型福祉施設太陽光発電システム及び蓄電システム設置費を補助しました。

1) 太陽光発電システムのみ

申請数: 2件

設置容量計: 57.7kW

2) 蓄電システムのみ

申請数: 1件

蓄電容量計: 9.1kWh

〈評価・課題〉

住宅用太陽光発電及び蓄電設備システムの設置費補助金の交付率は73%でした。

入所型福祉施設の太陽光発電システム及び蓄電システム設置については、令和4年8月に市内の福祉事業所にお知らせしましたが、申請は3件のみでした。

引き続き、住宅において再生可能エネルギーを活用した太陽光発電や蓄電池の設置により、電気を自家消費してもたうために、市民に補助制度の活用をPRしていきます。

第1章の関連する施策: 事業者に対する地球温暖化対策の普及活動(P24)、省エネルギー促進のための意識啓発・情報提供(P26)

4-5 環境に配慮した移動手段の促進

- 〈ねらい〉・移動手段として電動アシスト自転車を導入し、自動車の利用を控えることによって、二酸化炭素排出量が削減できることを市民及び事業者にPRします。
- ・超小型一人乗り電気自動車を市役所本所及び各支所に配置し、電気自動車を利用することによって、二酸化炭素排出量が削減できることを、市民及び事業者にPRします。

〈実施事業〉電動アシスト自転車や超小型電気自動車を利用しよう！

取組指標	現状(R4)	長期(R4)	令和4年度
走行距離	新規	5,000km	1,342 km

実施内容

市役所職員の市内への外出時は、公用車の利用を極力控え、電動アシスト自転車や超小型電気自動車を利用します。

●電動アシスト自転車利用 4件

●超小型電気自動車利用

本所 1,131km

笠間支所 120km

岩間支所 91km

<評価・課題>

電動アシスト自転車は、天候に左右されることと、業務において必要な書類や荷物等を運ぶことが困難であることからほとんど利用されませんでした。

また、超小型電気自動車は、車内にエアコンが搭載されてなく、季節によっては利用しにくいなどの理由から、あまり使われなかったと考えられます。

公用車については、電気自動車やハイブリッド車を積極的に導入していくことで、市民及び事業者へPRしていく必要があります。

第1章の関連する施策:地球温暖化防止に向けた率直的な取り組み(P23)、スマートムーブ(自動車利用の抑制)(P24)

【環境教育・学習・活動の促進】

5. 環境学習・環境保全活動促進プロジェクト

5-1 主体的な環境教育促進

〈ねらい〉 子ども達が自ら環境保全に関する課題を発見し、対策を検討し、自ら取り組みを行う主体的な環境教育の実施を通して、身近な環境に関心を持ち問題意識を持つとともに主体性を養います。

〈実施事業〉 涸沼川・巴川を探検しよう！

取組指標	当初(H27)	中期(R2)	長期(R7)	令和4年度
参加者数	27人	35人	100人	24名

実施内容

クリーンアップひぬまネットワークや霞ヶ浦問題協議会等で開催する各探検隊に参加して河川の環境問題について勉強します。

①涸沼川探検隊

令和4年8月9日（火）小学生24人
涸沼川をもっと身近に感じ、水質浄化意識の高揚を図ることを目的に実施しました。自然公園指導員矢野先生指導のもと、水生生物の調査や簡易水質検査（パックテスト）を行いました。



②巴川探検隊

令和4年8月2日（火）小学生8人
巴川を探検し、新たな発見や参加者相互のふれあいを通して水質浄化ばかりではなく、魅力ある地域作りにつなげることを目的に実施しました。また、水生生物の観察や水質調査を行いました。



〈評価・課題〉

毎年、夏休み期間中に実施している野外での活動のため、熱中症など子ども達の体調管理に留意するとともに、今後も子ども達が主体的に参加できるような体験学習を実施します。

第1章の関連する施策: 水辺の保全意識の高揚(P2)、学校等における環境学習の推進(P28)、体験型学習機会の充実(P28)

5-2 市民環境学習促進

〈ねらい〉 子どもから大人までを対象に、身近な環境から地球規模の環境問題まで幅広く環境について、学び体験する機会を提供するとともに、環境に対して関心をもち、主体的に環境保全活動に取り組む意識の醸成を図ります。

〈実施事業〉 環境寺子屋に行こう！

取組指標	当初(H27)	中期(R2)	長期(R7)	令和4年度
開催回数	—	4回	6回	13回

実施内容

地域の環境資源を活用し、講師による市民参加型の「環境寺子屋」を開催します。

①地球温暖化講座

「地球温暖化とお天気、自然災害について学ぼう」

令和4年7月31日（日） 参加者11名

会場：友部公民館多目的ホール

講師：いばらきエコの会

岸 倫男氏 ほか4名

内容：【午前の部】

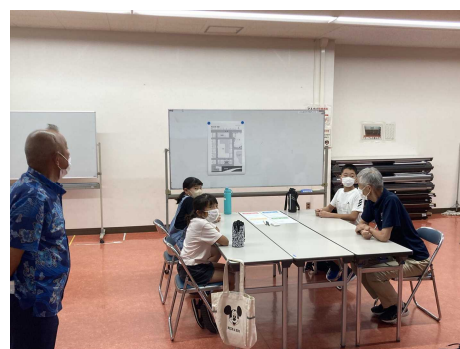
地球温暖化と気候変動について

- ・ 気象観測器にふれる
- ・ 雲の種類と雨の関係
- ・ 雲をつくろう（実験）

【午後の部】

シミュレーションゲーム

午前の部は、地球温暖化と異常気象について学び、午後の部は自然災害に関するシミュレーションゲームを行い楽しく学ぶことができました。



②環境教育人形劇

演者：人形劇団京芸

作品：エコシアターあおぞらげきじょう（3本立・約45分）

開催日	場所	参加者
令和4年9月14日（水）	宍戸小学校	106名（1・2・3学年5クラス）
令和4年9月14日（水）	岩間第一小学校	47名（2学年2クラス）
令和4年9月15日（木）	大原小学校	40名（1・2学年2クラス）
令和4年9月15日（木）	岩間第二小学校	35名（1・2学年2クラス）
令和4年9月29日（木）	みなみ学園義務教育学校	38名（1・2学年2クラス）
令和4年9月29日（木）	友部第二小学校	93名（2学年3クラス）
令和4年9月30日（金）	笠間小学校	113名（2学年4クラス）
令和4年9月30日（金）	北川根小学校	82名（1・2学年4クラス）

小学校2学年を対象とし、市内小学校に希望調査したところ、8校から観劇希望がありました。1クラスのための学校については、1学年も一緒に観てもらい、宍戸小学校については、昨年度新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした、現在3学年の児童にも観てもらいました。

人形たちのかわいらしい動きや軽快な音楽で、楽しみながら、節電、フードロスやリサイクルについて学ぶことができ、子どもたちからたくさんのお礼文をいただきました。



③環境活動家による講演会

講師：環境活動家 露木志奈（つゆきしいな）氏

開催日	場所	対象
令和4年9月15日(木)	友部中学校コンピューター室で講演。全教室へ配信	全学年
令和4年11月28日(月)	稲田中学校体育館	全学年、保護者
令和4年12月14日(水)	岩間中学校2年2組で講演。2年1組、3組へ配信	2学年

市内中学生を対象とし、環境問題についてより理解を深め、一人ひとりができることを考えてもらうために、希望のあった3校において気候変動や地球温暖化の影響などに関する講演を開催しました。

稲田中学校では、国連広報センターが露木志奈さんの講演を取材し、その内容がブログで紹介されました。



④「第6回笠間市こども理科自由研究プレゼン大会」

令和4年11月20日(日)

参加者：12作品20名、司会：笠間小学校6学年 6名、来場者：57名

会場：笠間小学校体育館

市内小学生が、夏休みに行う理科自由研究について、多くの人前でプレゼンテーションをする機会を設けることにより、「主体的な取組意欲」や「伝える力」などを育むことを目的として、市民団体（かさま環境を考える会、ごみを考える会）が中心となり、開催しました。子ども達が主役となり楽しく開催することができました。



<評価・課題>

子どもから大人までを対象に、環境について学ぶ機会や発表する機会を提供することができました。

引き続き環境寺子屋について、主体的に環境保全活動に取り組む意識の醸成を図っていきます。

第1章の関連する施策：地球温暖化に対する理解促進(P23)、市民・事業者への環境学習の促進(P28)

5-3 市民環境活動促進

〈ねらい〉 情報提供や活動内容、成果披露の場の提供、実施体制の強化など、市民・事業者が行う環境保全活動に対して支援を行うことで、各主体が環境保全活動を行う環境を整備し、その取組促進を図ります。

〈実施事業〉 笠間市環境サポーター制度の推進

取組指標	当初(R2)	長期(R7)	令和4年度
サポーター登録数	0人	600人	113人

実施内容

SNSを活用した環境サポーター制度を推進するために、市の環境情報を積極的に発信し、賛同する市民に、環境サポーターとして登録（フォロー）をしてもらい、イベントや市民団体等の活動に参加しやすい環境をつくることで、市の環境保全活動の活性化を図ります。

さらに、環境サポーターの活動を共有（シェア）することで市民の環境意識の向上を促します。

- 令和3年8月24日に環境保全課公式フェイスブックを開設し、市のさまざまな環境情報を発信するとともに、市の広報担当と記事内容をお互いに共有しながら、広報活動に努めました。

また、環境サポーターの登録を促進するために、環境教育学習等の参加者へチラシを配付しました。

記事投稿件数：105件

市広報等との共有件数：8件

〈評価・課題〉

環境サポーターとして登録してもらえるよう、市に関わる環境情報だけでなく、市民のためになるような情報も発信していく必要があると考えます。

第1章の関連する施策：地域コミュニティ活動の促進(P29)、市民・事業者の環境保全活動の支援(P29)